

一声社: TEL03-6676-2179/FAX03-6326-8150

新刊お知らせ

『**新聞紙・牛乳パック・おりがみでおはなし**』 藤田浩子編著 本体 1200 円

◆10月18日頃 取次搬入予定

新刊配本 予約締切間近!

閑話休題—新・勘違い 母編②

精進料理で、えらい目に

これは未だ十数年前の出来事。

母がお寺さんの婦人会で滋賀県にバス旅行。どこかのお寺で紫陽花を見て、精進料理をいただくコース。

精進料理など食べ慣れていない面々。普段は、焼き肉だのお寿司だのどちらかと言えば精進していない料理を好んで食べている。

次々に色んな料理が出てくるのはいいが、味が薄い・種類の数は多いが量が少ない…。内心では「物足りん」と思っているのに、

「ありがたいなあ。いつも食べ過ぎてしまうから、かえって新鮮やなあ。もったいない・もったいない」

と、信心深い風を装う方々。

やがて、刺身コンニャクとカマボコが出たらしい。紅白のカマボコの横に、緑色のカマボコが…。

「いや! 緑のカマボコって、珍しいなあ。やっぱり有名なお寺さんやから、食べたことないモンがでるわあ。ありがたい・ありがたい」「でも、何を付けて食べるんやろ? 醤油も何もなくてえ」「付けたらアカンがな。素材そのものの味をじっくり味わってという御仏のお考えや」「やっぱりTさんは物知りやな。そらそうや」

口々にそう言って (と、母は言うが…)、

母は最初に緑カマボコに手を出す。

「いや! これ、お箸でつかみにくいわあ。それも、有難いけどなあ。やっとなつかめた!」

緑色の、やたら柔らかいカマボコ風のもの、一口で放り込むと……。

「んぐぐぐつ……。鼻・鼻・ハナがつ。ぐふつ! ゲホつ! 涙・涙……」

皆さん、緑カマボコの正体が分かったでしょうか?

なんと、ワサビの塊だったのです。

刺身コンニャクとカマボコに少しずつワサビを載せて食べなさい—という事やったらしい。

ワサビの大きな塊を呑み込んだ母が、その後の精進料理を味わえたのかどうか。いやそもそも旅行を無事に終えたかどうか、定かではない。

バラエティ番組の若手芸人のような、体を張ったお笑いを披露した母をどうか温かく見守ってやってください。

ワサビつながり—甥っ子 編

甥っ子がまだ小学生の頃。一緒にご飯を食べる時、ワサビがない事に気づいた。

「僕が買って来る!」と、甥っ子が買い物に。帰って来た甥っ子は、大喜び。

「本物のワサビが売ってた! すごい!」

「そら、すごいな。どれ?」「これ」と彼が手渡したのは、箱入りチューブわさび。「んんっ?」と思っていると、甥っ子が一言。

「箱に『本わさび』って書いてあるじゃん。ワサビの絵も書いてあるでしょ」

なるほど…。「本わさび」は、本物やっという意味に取れるよなあ、確かに。まあ、関西風の「風」の意味も、ようわからんしなあ。どんまい・どんまい!